

平成28年度 認定こども園自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標を掲げている。

1. げんきであかるい子
2. こころのやさしい子
3. よく考え、工夫し、表現する子

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

認定こども園に移行したこと踏まえ、子ども達一人ひとりが生命の保持が図られ、安定した情緒の下で自己を十分に発揮し、自ら学ぶ力が獲得できるような保育を目指し、指導計画を作成した。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A…達成できた B…概ね達成できた C…概ね達成できたが課題が残る D…努力が必要

評価項目	取り組み状況	評価
食物アレルギーへの理解を深めるための研修を行うと共に、緊急時の対応について学び、医療機関との連携が図れるようシステムを構築していく。また、職員一人ひとりが食物アレルギー児への対応を共通理解し、安全で安心な食が提供できるよう努めていく。	食物アレルギーへの理解を深めるため職員間で研修を行い、アドレナリン自己注射（エピペン）の使用方法など緊急時の対応について学んだ。また、職員一人ひとりが食物アレルギー児への対応を共通理解し、安全な食が提供できるよう努めたが、更なる努力や安全への配慮が必要である。	C
学年ごと、認定こども園としての特色を活かした保育を計画し、実践していく。また、評価反省を行う中で、子どもたちの情緒が安定し、いきいきと活動できるような保育を目指していく。	各学年、認定こども園としての特色を活かした保育を計画し、実践した。また、評価反省を行う中で、子どもたちの情緒が安定し、いきいきと活動できるような保育を目指してきたが、更なる計画の見直しを進めていくべきである。	B
昨年、新たに取り入れた子育て支援相談・療育支援を更に充実させ、発展させていくよう、研修会への参加・相談員の充実等を図る。 また、特別な支援の必要な子どもに対し、適切な指導や援助、関わりがもてるよう専門機関と連携しながら指導計画を作成し、実践していく。	昨年、新たに取り入れた子育て支援相談・療育支援を更に充実させ、発展させていくよう、研修会への参加・相談員の充実等を図った。また、特別な支援の必要な子どもに対し、適切な指導や援助、関わりがもてるよう専門機関と連携しながら指導にあたる事ができた。指導計画については、引き続き研究が必要である。	A
小1プロブレムにおける課題を受け、年長児、及び年長児の保護者が安心し、期待感を持って進学できるような取り組みを行っていく。また、進学する年長児が生きる力を獲得できるよう、地域の小学校と連携し、課題の解決に努める。	就学へ向けてのアプローチカリキュラムにおける課題を受け、保育者の小学校見学や授業参観への参加、小学校教諭経験者から助言を頂くなどし、年長児、及び保護者が安心し、期待感を持って就学できるよう努めた。来年度は、更に成果が得られるような取り組みを増やしていく必要がある。また、就学する年長児が生きる力を獲得できるよう、地域の小学校と連携し、課題の解決に取り組む中で、新たな課題の発見にもつながった。	B

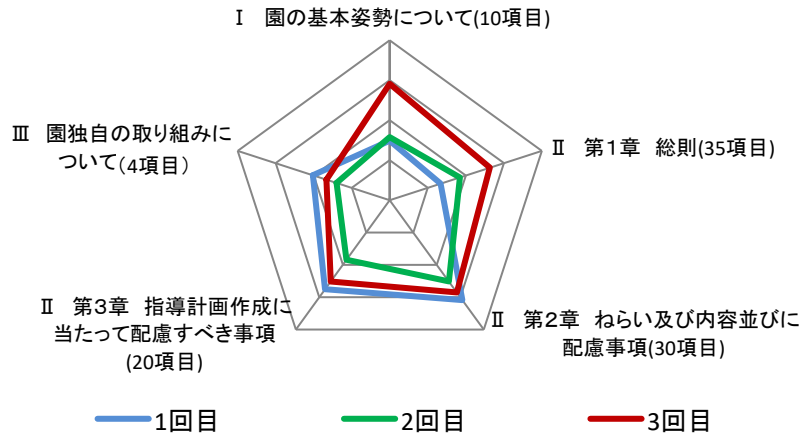
4. 自己評価結果と分析

- ・評価方法

各職員が、学期末に各自自己評価を行い（年3回）、全体の統計を出す。

- ・分析

各職員の同じ項目の評価が低いことから、その項目について園での取り組みが薄いことがわかる。研修等を重ねていく中で、次第に改善されている。



5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

各職員が研修・研究を繰り返す中で、職員間で情報の共有や伝達を行いながら協力して課題に取り組み、工夫している姿が見られたので、概ね目標は達成できた。更なる課題への取り組みを期待する。

6. 今後取り組むべき課題

食物アレルギー、熱性けいれん等、健康状態に留意すべき園児への理解と対応	食物アレルギー、熱性けいれん等の疾患への理解を深め、必要な知識を身につけると共に、園児一人ひとりの健康状態を把握し、緊急時の対応が適切に行えるよう、研修を行う。 また、職員間で情報を共有し、子どもたちが安全で安心な園生活を送れるよう、努めていく。
幼保連携型認定こども園保育・教育要領の理解と研究	幼保連携型認定こども園保育・教育要領の改訂を受け、研修への参加や職員間での研究を行い、保育計画の立案に活かし、実践していく。
保護者との連携	保護者、職員共に子どもたちがよりよく育っていくためにという思いに基づき、協力していける体制を整えていく。また、社会全体の子育て世代が抱える課題を理解し、認定こども園として取り組むべき課題を模索し解決に努める。
就学へ向けての課題と取り組み	昨年度に引き続き小学校と連携しながら、就学に向けての課題を設定し、就学に必要な力が獲得できるよう、年長児のみならず全ての学年で見通しを持った取り組みを行う。 また、一人ひとりが安心して就学できるよう、子育て支援や療育支援の充実を図ると共に、研修等を通し保育者の知識向上を目指していく。

7. 学校関係者の評価

学校関係者より、認定こども園運営は良好との意見をいただいた。自己評価を行い、職員全員が新たな課題に積極的に取り組む中で、より良い保育を行おうという向上心が見られる。との評価をいただく。

8. 財務状況

会計処理についても適切に処理されている旨の報告を公認会計士より受けている。